

for a bright tomorrow

びわこ学園 後援会 NEWS

no.
132

2024年(令和6年)10月1日発行

びわこ学園後援会事務局

〒520-2321 滋賀県野洲市北桜978-2 びわこ学園医療福祉センター野洲内

TEL.077-587-1144 / FAX.077-587-4211

<https://www.biwakogakuen.or.jp>

発行責任者 遠藤 六朗 / 編集責任者 堀田 乃梨



Ⅰ 学園との関わり半世紀

島田 司巳

建設途上の滋賀医大に赴任した1975年春、故・岡崎英彦先生にお出会ったのが契機となり、以来半世紀近く、びわこ学園後援会に関わらせていただきました。



後援会は1967年に発足し、1969年に「びわこ学園

後援会だより」第1号が創刊されました。その後、曲折を経て「後援会ニュース」となり、上田健治郎初代会長や広野寛会長などのご尽力により、2014年1月の第100号発行に至っています。2014年、広野氏のご逝去後は、私が三代目を務めさせていただきました。

しかし、私も今年卒寿を迎え、心身機能の低下が顕著となりましたので、後援会の方も引退させていただきたいと思います。学園の益々の発展を祈願いたします。

Ⅰ 会長就任のあいさつ

遠藤 六朗

このたびはからずも会長の指名を受けお引き受けすることになりました。びわこ学園在職中は後援会のお世話になり、私は助成を受けヨーロッパ障害者施設視察(1982)、そして携わせてもらった第二びわこ学園の北桜移転整備(2004)では多大なご支援をいただきました。



在職中は楽な時期は一時もなく、しんどい頃、初代園長岡崎英彦先生は「こんなおもしろいことあらへんで」と話されていたのを覚えています。重症心身障害児施設は何もないところから始まりましたが、岡崎先生の人間に対する好奇心とも言えるものがあつたればこそ、この困難を乗り越えさせたのでしょう。そして、平成に入ってからには県下の重症心身障がい通所、地域生活支援構築、移転整備に関わらせていただきました。

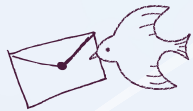
近江学園からびわこ学園へ、糸賀一雄先生は中度か

ら重度へ、そして岡崎先生は糸賀先生と共に重度・重症化へと障がいのある人の生活創造に立ち向かわれました。それから60年、びわこ学園は重度・重症化、とりわけ超重症心身障がいや医療的ケア等、施設での、地域での、その生活創造が大きな課題となっています。しかも、幼児期から高齢期までのすべてのライフステージを見渡すことができる今の時代、それぞれのステージに相応しい生活創造の課題もあります。重度・重症化は質的に大きく深化してきている今、しかしその基本は糸賀・岡崎が目指した生活創造の探究にあります。

こういう時代にあるびわこ学園の多様な事業を後援し職員を励まし後方から支えていく、これが後援会の本務です。さて、本来、会長はびわこ学園旧職員からではなく、外から会長を選任すべきものと思っています。そういう幅の広さもびわこ学園の取り柄でした。それまでの任にあたりたいと思います。

末筆になりましたが、島田司巳前会長の長きにわたるご尽力に感謝申し上げ労いの言葉とさせていただきます。ありがとうございました。





BIWAKOGAKUEN

OB通信



高塩 純一

びわこ学園医療福祉センター
草津リハビリテーション課
非常勤職員理学療法士

映画「夜明け前の子どもたち」に立ち返って

糸賀一雄先生が「この子らを世の光に」や「福祉の思想」といった著書で広く知られ、多くの人々に大きな影響を与えた県立近江学園は、今年の11月で創設から78年を迎えます。私自身も、第一びわこ学園が長等山にあった時代から勤務しており、その歩みに深く関わってきました。ご存じの通り、第一びわこ学園は、近江学園の中でも特に医療を必要とする子どもたち、すなわちてんかんや精神発達遅滞などの障害を持つ子どもたちを対象とした療育グループ「杉組」を母体として、1963年に大津市長等山で設立されました。

1976年の秋、第一びわこ学園では「糸賀一雄とびわこ学園」というテーマで講演会が開催されました。この講演会は、当時の日本社会における障害者福祉の現状や、糸賀一雄先生の思想について深く考えるための非常に意義深い機会でした。講師には、映画「夜明け前の子どもたち」の総責任者であり、龍谷大学教授の田中昌人先生をお招きしました。田中先生は、糸賀先生の思想や活動に対して非常に深い理解を持ち、その洞察力をもって私たちに貴重な知見を提供してくださいました。田中先生の講演は、糸賀先生がどのような思想を持ち、それをどのように実践してきたのかを具体的に示し、私たちに多くの示唆を与えてくれました。

糸賀先生が活動していた時代は、現在の私たちが生きている時代とは大きく異なり、日本社会において障害者に対する理解や支援は非常に限られていました。当時は、公害問題や「人間にとって生きる権利とは何か」を問う朝日訴訟など、障害者が社会にどのように受け入れられるべきかが厳しく問われていた時期でした。しかし、その一方で、障害を持つ人々はしばしば劣等

な存在と見なされ、彼らの権利や福祉が軽視されてきました。特に、医療や教育の提供が非常に不十分であり、社会全体に広がっていた能力主義の考え方が主流を占めていたため、能力に応じて教育が与えられるべきだという考えが一般的でした。その結果、重症児は教育の対象外とされることが多く、「これ以上の不幸を増やさないためにも、早く亡くなる方が幸せだ」といった意見が、多くの国民に支持されるような時代でした。

そうした時代背景の中で、糸賀先生は「身体的・精神的な不幸を一身に担って生まれてきたこの子どもたちにも、幸福に生きる権利がある。私たちは全力を尽くして、その生命と発達を保障してゆきたい。それがこの世紀に課せられた使命の一つであることを確信している」と強く訴えました。この言葉は、当時の日本社会において非常に革新的であり、また勇気をもって語られた発言でした。さらに糸賀先生は、「すべての人間・生命の発達を保障するという考え方は、日本の社会計画の中身を形成するためのささやかではあるが最も具体的な試みであり、訴えである」とも述べ、この考え方が日本社会全体に広がることを目指していました。この理念は、単なる理想論にとどまらず、



具体的な実践としても追求されていったのです。

糸賀先生はまた、「世論は作られたものである。世論を変えるためにも、我々は立ち上がらなければならない」と述べ、単に理念にとどまらず、具体的な行動をもって社会を変革しようとする意志を表明しました。この発言は、障害者福祉の分野において特に重要な意味を持ち、当時の日本社会において大きな影響を与えました。糸賀先生の考え方は、日本の障害児福祉を牽引する重要な存在となり、その後も多くの人々に影響を与え続け、今日に至るまで障害者福祉の発展に大きく貢献しています。

しかし、50年以上が経過した現在、この「発達保障」の理念はどのように受け継がれ、そしてどのように発展してきたのでしょうか。子どもたちの障害がますます重度化し、複雑化する中で、「超重症児」や「医療的ケア児」といった言葉が当たり前に使われるようになりました。私たちは、その障害の重さに感わされるあまり、子どもたちの発達する権利を奪ってはいないでしょうか。これらの子どもたちは、決して重い障害を持って生まれてきたかったわけではありませんし、自ら施設入所を望んだわけでもありません。それにもかかわらず、彼らはこの社会で確かに存在し、ここで生活しているのです。果たして、この子たちに夜明けは訪れたのでしょうか。彼らが真に幸福に生きることができる社会は、実現しているのでしょうか。

障害が重度化し、複雑化する今こそ、私たちはもう一度原点に立ち返り、再度この問題について深く考える必要があります。私たちは、糸賀先生・田中先生の遺した「発達保障」の理念を再確認し、障害を抱えながらも懸命に生きている人々の人格発達権を徹底的に保障し続けることが、次世代を担う私たちの責務であると強く感じています。この責務を果たすためには、社会全体が障害者福祉に対する理解を深め、具体的な支援を行うことが必要です。私たち一人ひとりが、障害者の人権と福祉を守るために何ができるのかを真剣に考え、行動していくことが求められています。

さらに、岡崎英彦先生の遺した「本人さんはどう思てはるんやろ…」という言葉に胸に刻みながら、これ



からの未来に向けて何をすべきかを問い続けていきたいと思えます。現在の私たちが享受している社会の中で、障害を持つ人々が安心して生活できる環境が整えられているか、真にその権利が保障されているかを見つめ直す必要があります。障害者が持つ権利の一つである「発達権」は、どのような状況にあっても保証されるべきです。しかし、その保証が実現されているかどうかは、社会の理解と共感、そして具体的な行動が伴わなければなりません。

社会全体で障害者の生活と発達を支援するための取り組みが求められている今、私たち一人ひとりがどのような役割を果たすべきか、どのようにして共に歩いていくかを考えることが重要です。田中先生が示した「発達保障」の理念は、単なる福祉の枠を超え、人間の尊厳や生きる権利と深く結びついているからこそ、私たちはその意味を再認識し、社会全体に広げていく責務があります。そして、この責務を果たすためには、教育、福祉、医療、すべての分野で障害者が直面する課題に対して一層の理解を深め、支援の手を差し伸べることが求められます。

障害者が真に幸福に生きるためには、社会全体がその存在を認め、受け入れることが必要不可欠です。それは、障害者がただ生きるのではなく、豊かな人生を送るための基盤を整えることに他なりません。私は、彼ら彼女らが社会の一員として尊重され、その権利が実際に保証される未来を築くために、今こそ行動する時だと感じています。糸賀先生の遺志を継ぎ、社会全体で障害者の「夜明け」を迎えるための歩みを止めることなく続けていくことが、私たちの使命であると信じています。

令和6年度 びわこ学園後援会臨時総会報告

(2024年8月19日開催) びわこ学園後援会事務局

今回は役員(監事)の交代とびわこ学園医療福祉センター野洲のイベント補助について、ご審議いただきたく臨時総会を開催しました。ご出席いただいた役員の皆様とご欠席された役員の皆様の書面評決により、両議案について全員にご承認いただきました。

【議案概要】

第4号議案 改選後のびわこ学園後援会役員について

今回監事1名の交代についてご承認いただきました。これまでおつとめいただいた朝雛様にお礼申し上げますとともに新たにご就任いただいた小西様、どうぞよろしくお願いたします。

第5号議案 令和6年度補正予算(案)について

びわこ学園医療福祉センター野洲で開催する移転20周年企画のコンサートに音響や配信する費用の補助として、施設イベント補助に15万円追加計上することについてご承認いただきました。当日は以下でご報告いただいている西田生活支援部長にもご出席いただき、イベントの趣旨についてご説明いただきました。但し、年度途中における急遽の追加予算となったことから、今後予算立案にあたっては計画的に進めて参ります。

びわこ学園野洲北桜移転20周年企画

「関本泰輝さんコンサート」を開催しました

2004年3月に旧第二びわこ学園から北桜へ移転して、今年で早くも20年を迎えました。この記念すべき年に何かイベントを開催できないかと考えていたところ、京都・亀岡在住の車椅子シンガーソングライター関本泰輝さんにご出演いただけることが決まり、9月21日に20周年記念コンサートを開催いたしました。

会場はセンター野洲敷地内の野洲養護学校北桜校舎でしたが、会場の広さを考慮すると多くの利用者が参加するのは難しい状況でした。そこで、びわこ学園後援会の臨時総会で音響や配信にかかる費用を補助いただけるようご相談した結果、快くご承諾いただきました。

「奇跡の声」と称される関本さんの歌声と心に響く歌詞により、非常に感動的なコンサートを開催することができました。会場で直接聴かれた方々からは「素晴らしかった」「感動した」とのお声をいただきました。そ



びわこ学園医療福祉センター野洲
生活支援部長 西田 幸夫

こにとどまらず配信できたことで、各病棟でもコンサート会場(パブリックビューイング)が設けられたり、ベッドサイドでも



モニターで視聴できたことで、まさに利用者一人ひとりに合わせたコンサート会場が実現したように感じました。

配信によって臨場感のある音と映像を楽しんでいたのは、ひとえに後援会の皆様のご協力のおかげであり、深く感謝申し上げます。

さらに、後援会の会員の方々も配信で視聴いただき、入所利用者と共にコンサートを楽しんでいただきました。会員の皆様が今回のコンサートをどのように感じられたのか、機会があればお聞かせ願いたいと思います。利用者が重度化し、高齢化が進む中で、イベントへの参加が難しくなる状況も増えていますが、配信という手段により新たな楽しみ方を見出すことができました。何より、関本さんの歌声を多くの皆様に届けることができたことを大変嬉しく思っております。

こしばの 絵具箱

園芸活動

仲間と共に作業を行う楽しみを感じながら、植物が育っていく過程を通して季節を感じることを目標に活動を行っています。

ピアーズ 笠松容子（生活支援員）

びわこ学園障害者支援センター 重症心身障害者通所施設ピアーズでは、紙すき・運動・感触・絵画・音楽・園芸の5つの活動を実施しています。利用者の皆さんが持っている力を活かせるよう工夫をしながら活動を展開しており、その中で利用者の新しい姿の発見や、思いがけないハプニング等での笑い声がフロアに響いています。

今回は その中の1つ園芸活動を紹介したいと思います。

1.



次は何のお花を育てようかな？

2.



扇風機コーナーでひとやすみ、、、

季節のお花を見にホームセンターにも出かけました。

3.



グリーンカーテンになった朝顔のツルでリースを作ろうとツルの採集をしました。とても素敵なリースが完成しました。

4.



大菊の栽培にも初挑戦しました。お天気の移り変わりに注意しながら、丁寧に育てました。立派な大菊がたくさん咲きました。玄関の前に並べて「ピアーズ菊花展」開催しました。



5.



手作りの花壇。利用者からプランターが見えやすい高さに作ってもらいました。水やりもしやすく、この花壇に季節の花が咲いています。

みんなで一緒に土に触ったり、暑い中、水やりをがんばったり、、、咲いた花から次の季節に蒔く種を採取したりとなかなか忙しい園芸活動ですが、これからも色とりどりの花を見てみんなでニコリできる空間を、利用者のみならずと一緒に作っていききたいと思います。

みなさま

いつもありがとうございます

後援会会費納入者ご芳名

2024年4月1日～2024年7月31日受付分 (敬称略、順不同)

<2024年度分会費>

二宮博之	大田眞理子	中村静雄	豊島史子	横田正
坂野幸江	池口博信	堤龍子	西浦正一	森野才
中富恵子	枘谷美代子	諸岡茂實	斎藤恭子	菅谷則
藤木充美	水谷睦美子	馬庭淳春	中村昭代	大角田
林久美夫	青谷裕美子	安藤正祥	濱田多恵	田辺久
安孫子邦	奥村みち子	立藤村輝	久木村康	上田俊
立入幸基	山口美千子	藤村光義	市村和一	高田泰
尾見吉延	垣貫邦男	小松光壽	沢正宏	光吉俊
前田久美子	橋口節郎	埜真壽美	馬杉直弓	秦紀久
森田久男	山本芳子	吉永田寛	秋田その	川田忠
磯尾博司	入江至一	上戸和子	山岸真雄	小寺昭
北村庸雄	白井実司	齊藤誠精	豊永ふさ	中川一
小七里壽子	西澤伸聖	西三瀬さ	西村圭三	長谷川
古川武節	松林敬司	渡瀬英秋	井上和夫	本館淑
山本伸年	大見武男	柏木かづ	磯崎聖宣	上野富
外山妙子	曾幣尚子	増田ひろ	鳥居徹	西田太
荻曾潤子	稲垣千賀	立岡克子	梅本勉博	新開紀
豊嶋博文	音瀬さえ	金谷美代	加藤長志	河村善一
大橋政司	久野春夫	原代昭浩	小泉まき	島田綾
黄瀬金美	菅井由花	林正美香	高橋達郎	竹本幸
島村登志	中山久浩	下出藤恵	水野みどり	梅井正
塚岡・安	山田正一	斎藤麗光	西澤勝彦	荻原とも
葛田とみ	齊橋正代	高勢佳子	田代弘道	今村本
角田憲隆	西文子	堀江重隆	橋村マサ	谷崎清
田邊輝明	福本喜美	丸岡順子	本澤智子	前河三
増田隆治	松枝道一	山本末雄	益田美代	明光竹
森幸雄	元田とも	大橋智行	小川きぬ	浅井多
後藤キミ	濱由佳子	新見千恵	竹中隆宏	奥村文
川上進彦	千田涌三	原田清夫	西村次節	松村さ
堤末彦	仲野高春	吉永淑	戸米津	仁田一
野田文子	吉川朝子	時札節	井口加代	武藤安
大原よし	岩田淑子			若杉雄
渡辺有久				

<2025年度分会費>

伊東徹也	堤龍子	水谷睦美	杉本直樹	西浦正一
濱田多恵子	塚本正弘	塚本昌子	田辺久子	

<2026年度分会費>

堤龍子

<2027年度分会費>

中須賀 ツギ子 兼 岩 龍 善

<2028年度分会費>

中須賀 ツギ子 兼 岩 龍 善

<2029年度分会費>

中須賀 ツギ子 兼 岩 龍 善

後援会寄附金納入者ご芳名




2024年4月1日～2024年7月31日受付分

(敬称略、順不同)

諸岡茂實	駒井潔
中村昭代	笹井忠夫
大谷則二	角田隆子
白井靖子	

びわこ学園後援会 会員募集のご案内

びわこ学園後援会は、「この子らを世の光に」という理念のもと、重い障害を持たれている方がたへ支援している
 びわこ学園の事業支援や、事業理解をより多くの方に拡げていくことを目的に活動しています。
 この活動趣旨をご理解いただき、ご賛同いただける方を募集しています。

<h2>ご入会 いただくと…</h2> 	<p>① 「びわこ学園後援会ニュース」 「びわこ学園だより」 の送付(年3回)</p> 	<p>② びわこ学園記録映画 「夜明け前の子どもたち」「わたしの季節」の DVDを10%OFFで販売(¥5,000→4,500)</p> 
---	---	--

会費 個人:3,000円 / 法人・団体:30,000円(年一口)

【ご入会の手続き】

下の払込取扱票を切り取っていただき、必要事項をご記入の上、郵便局で手続きをお願いします。(手数料は無料です)
 払込取扱票が無い場合は、直接事務局宛にご請求下さるか郵便局に備え付けの振替用紙に以下をご記入の上、手続きをお願いします。
 < 口座番号 01080 2 9958 社会福祉法人 びわこ学園後援会 >

※びわこ学園後援会へのご寄附は税制上の優遇措置の対象外です。

※社会福祉法人びわこ学園への寄附につきましてはびわこ学園へ直接お問い合わせ又はびわこ学園ホームページをご覧ください。

この払込用紙でのお取扱いはいたしかねますのでご注意ください。

02 大阪										払込取扱票					通常払込料金 加入者負担			
口座番号													金額					
0 1 0 8 0 2 9 9 5 8													千 百 十 万 千 百 十 円					
加入者名 社会福祉法人びわこ学園 後援会													料 金			備 考		
通信欄 * 1. びわこ学園後援会会費 2. びわこ学園後援会寄付金 年度 □ 円 円 紹介者													千 百 十 万 千 百 十 円					
													* (〒 -) おところ			日 附 印		
													* おなまえ ご依頼人			様		
裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行) (承認番号京第2567号) これより下部には何も記入しないでください。													日 附 印					

振替払込請求書兼受領証

口座番号													通常払込 料金加入 者負担		
0 1 0 8 0 2													千 百 十 万 千 百 十 円		
9 9 5 8													千 百 十 万 千 百 十 円		
加入者名													金額		
社会福祉法人びわこ学園 後援会													* おなまえ ご依頼人		
料 金													日 附 印		
備 考													様		

この受領証は、大切に保管してください。

夏祭りお礼

7月25日にセンター野洲で夏祭りを開催しました。今年も恒例のJERRY BEANSさんのライブは野洲養護学校の北桜校舎をお借りして午後の部のみとなりましたが、終始盛り上がっていました。今回もコロナの影響を受けてしまい、1病棟の利用者さんはお部屋での参加となりましたが、施設内限定でYouTube配信を行い、会場に居るような臨場感で楽しんでいただけたことと思います。お祭りメニューも栄養課の皆さんのアイデアや工夫が際立ち、利用者さんも喜んでいました。楽しい思い出がまた増えました。心よりお礼申し上げます。

医療福祉センター野洲 事務所 野村

後援会会費・寄附金納入者累計

	年度	区分	当期受付分	累計
会費	2024年度分	会員数	185人	185人
		口数	200口	200口
		金額	602,000円	602,000円
	2025年度分	会員数	9人	9人
		口数	9口	9口
		金額	27,000円	27,000円
	2026年度分	会員数	1人	1人
		口数	1口	1口
		金額	3,000円	3,000円
2027年度～2029年度分	会員数	6人	6人	
	口数	6口	6口	
	金額	18,000円	18,000円	

	区分	当期受付分	累計
後援会寄附金	会員数	7人	7人
	金額	78,000円	78,000円

編集後記

猛暑の日々が長らく続いていましたが、それも少し落ち着き、朝夕は過ごしやすい気候となりました。秋といえば、「〇〇の秋」という言葉をよく耳にしますよね。私事ですが、最近夕食後に少し散歩をするのがブームになっています。歩いてみると、風が気持ちよかったり、月がきれいだったり、虫の音が聞こえたり、、、普段あまり気に留めていなかったことに気付いたりするのです。車移動に慣れるととても便利で、何も考えずに通り過ぎてしまうことがたくさんありますが、たまには運動がてら散策してみてもいいものだなあと思いました。この秋は「スポーツの秋」にちなんで体を動かしたいと思う一方、おいしい物の誘惑に負けてしまいそうな予感がしています(毎年のこと...)。皆さんは「〇〇の秋」、何を連想されるでしょうか。(H)

(ご注意)

- この用紙は、機械で処理しますので、金額を記入する際は、枠内にはっきりと記入してください。また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。
- この用紙は、ゆうちょ銀行又は郵便局の払込機能付きATMでもご利用いただけます。
- この払込書を、ゆうちょ銀行又は郵便局の渉外員にお預けになるときは、引換えに預り証を必ずお受け取りください。
- ご依頼人様からご提出いただきました払込書に記載されたおところ、おなまえ等は、加入者様に通知されます。
- この受領証は、払込みの証拠となるものですから大切に保管してください。

収入印紙
5万円以上
貼付

印

この場所には、何も記載しないでください。